



◆ 除雪、除雪、また除雪

昭和基地に着いて感じたのが、意外と雪が少ないということは以前に紹介しました。しかし、それは夏作業に向けて、56次越冬隊の方々日々、除雪や融雪作業に取り組んでいたというのも大きな要因です。雪がなければ南極らしくなく、水の確保も困難になりますが、ありすぎても困りものです。

3日は、大型大気レーダー（通称：PANSY（パンジー）レーダー）の除雪作業に携わりました。PANSYレーダーは、極域特有の現象である極成層圏雲や極中間圏雲（夜光雲）の発生頻度やメカニズムを探るため、高層の風の挙動を捉えるレーダーです。何と1045本のアンテナ群からなり、今年は通年フルシステム観測を目指しています。その障害となるのが雪です。雪に埋もれ曲がったアンテナもあります。場所により積雪量も違います。アンテナケーブルがあるため、重機が入れないのも難点。人力が頼り。凸凹になった雪を除雪しながら平らにし、土をまんべんなく撒いて、太陽熱を利用した融雪に導きます。深い所は除雪後、アンテナの嵩上げ工事もします。しかし、膨大な数のアンテナ。1日だけのお手伝いでしたが、雪国の雪かきの大変さを身を持って知りました。

PANSYチームは、フル稼働に向けて、夏期間中除雪に汗を流しました。



PANSYレーダー



送受信装置



除雪がこんなに大変とは・・・

◆ JARE57 隊員紹介

藤田 光高 (51) 夏隊 重点研究観測 広島県出身

株式会社西日本電子 第53・54次夏隊同行者、第55・56次夏隊

職場では、携帯電話の無線局設置や海外で湾岸局無線アンテナ工事に携わる。南極へは、取引先の企業との関係で53次隊より派遣されることとなった。南極域の中層・超高層大気を探るためのPANSYレーダーの設置や調整に当初より関わる。1045本ものアンテナ群の最後の微調整をおこない、通年フルシステム観測体制に入る。今回で5年連続の南極となるが、作業場所がやや離れたところにあるため、未だ昭和基地全体のことかわかっていない。今年が最後の派遣となる可能性が高く、少しは近隣を巡ればと考えている。ただ、チャンスがあるのなら、越冬してみたいとも。皆さんへは「興味があることを一生懸命追究してください」とアドバイス。多くの研究者から話を伺う貴重な体験を通して学んだとのこと。



除雪作業中の藤田隊員

◆ 太陽と土の力

上で記したように、融雪には太陽の力をうまく利用します。雪の表面にうっすらと土を撒き、熱を吸収しやすくして融かします。これが効果絶大。私も写真のように、雪の上に土で校章を描いたところ、見る見るうちにその部分だけ雪が融けていきました。白夜の南極ではより功を奏します。ただ、厚く撒きすぎると逆に熱が伝わりにくくなり雪が硬くなるので要注意です。



西高の校章も・・・

◆ 南極トリビア

宿舎入口の階段下にあるカットしたドラム缶の泥水。ズバリ、これは何？

- ① 靴の泥を落とす
- ② 階段掃除用
- ③ 階段の凍結防止剤
- ④ 氷結の有無で怪我注意喚起



2015.12.25.
1時間で雪に刻印が